

ソルビカギリ
びじゅつかん
美術
風

原案／村井昌世 作／ソルビカギリ美術館製作委員会
構成・演出／大潤弘幸 美術／ナカムラジン 制作／浅野井優子



あらすじ

ある日のこと、まーちゃんに
ソノヒカギリ美術館から絵本みたいな招待状が届きました。招待状には真っ白なページがついていて、最後のページにこんなことが書いてあります。
「まっしろいページは、この美術館にくると…。さあ、あなたもソノヒカギリ美術館にきてみませんか」

まーちゃんはまだ美術館に行ったことがありません。まーちゃんは行きたくて行きたくてワクワクしてきました。でもこの招待状には行き方が書いてなくて、どうやって行くのかわかりません。すると、最後のページの文字が変わり始めました。
「どこのドアでもいいので開けてごらん。

そこがソノヒカギリ美術館の入り口だよ」
まーちゃんがいつもの自分の部屋のドアを開けると、そこはソノヒカギリ美術館。学芸員のソノバシノギさんとソノキニナルさんが待っていました。

さあ、ソノヒカギリ美術館の開館です。



ソノヒカギリ びじゅつかん 美術館

ようこそ 美術館へ

美術館と言えば、静かに絵や彫刻など鑑賞する場所というイメージをもつ人が多いと思います。なぜ、そう思ってしまうのでしょうか？

子どもの頃、泥だんごを作るために泥の中に手を突っ込んだ感覚は大人になってからも忘れません。指と指の間から、ぐにゅとすり抜けていく泥、時に生温かく、時に冷たく、そんな泥を丸めて、丸めて、乾燥させて、磨いて、つるつるの泥だんごにしていくな。そんな手の感触に残るような芝居を創ってみたいと思いました。

砂場で子どもたちがいろいろなものを創る、そして、それはソノヒカギリ。創っては壊し、創っては壊す。子どもたちの前で劇をするということ自体がソノヒカギリ美術館かもしれません。

構成・演出 大潤弘幸



〒192-0152 東京都八王子市美山町1320-1
TEL.042-652-1001 FAX.042-652-1013
(E-mail) tokyo@kazenoko.co.jp
(URL) <http://www.kazenoko.co.jp>